



本年度の学校教育報告（その2）

② 豊かな心の育成 ～ ことば、そうじ～

穏やかな心、豊かな心を育てるために、言葉遣いおよび子どもたちを取り巻く言語環境を整えること重視し、年間を通して指導を重ねてきました。

まず、定期的に、いじめ防止・早期発見のための生活アンケートや言葉のアンケートを実施し、子どもたちの言葉遣いの現状をとらえています。12月の人権に関する参観では、どの学年も、言葉の大切さを題材にした学習を行いました。

また、「チクチク言葉」や友達の呼び捨てをやめ、相手が嬉しくなる「ふわふわ言葉」をたくさん使うことをめざした『ふわふわすごろく』の取組では、子どもたちは、楽しみながら自分たちの言葉遣いについて振り返ることができました。

子どもたちは、学校・家庭・地域という場で生活していますので、「共育」として、それぞれの場が同じ考えで言語環境づくりを進めなくてはならないと考えています。

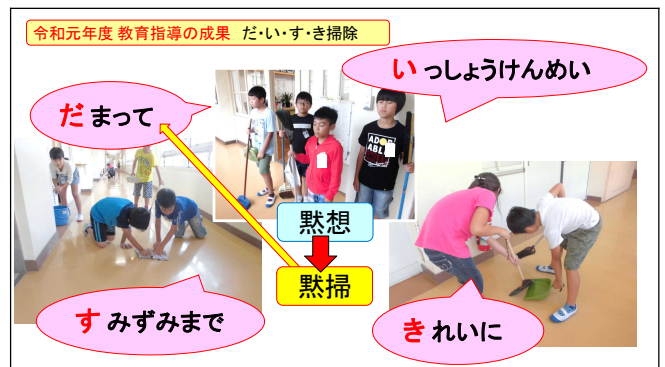
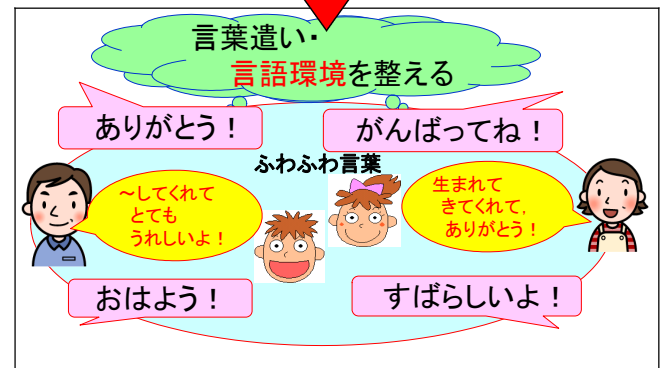
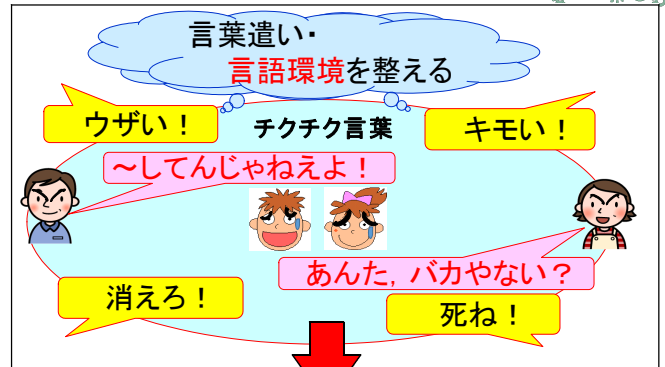
ですから、私たち教職員は指導者としての適切で温かい言葉遣いに努めていますし、保護者の皆様も、子どもの健全な成長のためには、どのような言葉を発するのがふさわしいのかを考え、お子様に接していただきたいと考えています。『子は親の鏡』と言われる。その子を見れば、どんな親かが分かるという、ある意味、怖くて厳しい言葉ですが、私たち大人が自身の言動に気をつけることで、子どもたちに、いい影響を与えたいものです。

『だ・い・す・き』は、本校の掃除の合言葉です。ここ2年、『だ』、つまり、だまって取り組む黙掃が定着しつつあります。

まだ完璧な様子ではありませんが、チャイムが鳴ると、それまでの昼休みのにぎやかな声が、ピタッとやむのが校長室にいても分かり、私は感動すらしています。

今後、『す』みずみまでと『き』れいにのレベルアップをめざしたいと考えています。

ことばとそうじについての職員の自己評価は、上の表の通りです。どの項目も4～7月よりもアップしていますが、子どもたちの姿は2点台にとどまっていますので、力の定着を図るための指導を継続することとしています。



令和元年度 職員の自己評価から

心	職員が、達成度をA(4点)・B(3点)・C(2点)・D(1点)で評価した、その平均点	4～7月	9～12月
		1	言葉を大切に活動として、あいさつ、言葉遣い(くん・さん付け、ふわふわ言葉)についての指導をすることができたか。
2	子どもは進んで気持ちのよいあいさつをしたり、適切な言葉遣いをしたりすることができているか。	2.64	2.83 ↑
3	心を磨く清掃活動をめざし、「だ・い・す・き」掃除についての指導を継続的に行うことができたか。	2.85	3.08 ↑
4	子どもは、エリア・道具の効果的な使い方・手順を理解して黙々と掃除に取り組み、校内を美しくすることができたか。	2.77	2.94 ↑

